

進捗状況の概要

平成 27 年度は、事業運営体制を充実するとともに、行動目標ごとに関係する学士力や評価方法などが定義された新シラバス（案）の作成に先立ち、ディプロマポリシー達成のための到達度を測る指標として、学生に獲得させることが必要な具体的な能力を示す、「コンピテンス・コンピテンシー」を策定することを主目的にした検討に取り組み、次のⅠ～Ⅷの事業を実施した。

Ⅰ. 事業運営体制の充実

各種データ処理、分析補助及び補助金執行関係事務等に当たる事務職員 1 名を、本補助金で平成 27 年 4 月から教育支援・教学 IR 室に雇用した。

Ⅱ. 外部評価委員会の設置

平成 28 年度に実施する外部評価に備えて、平成 27 年 11 月に福岡歯科大学第三者評価委員会規則に基づき、医学・歯学教育に関わる教員、歯科医院（臨床研修協力施設）の院長、地域自治協議会会長で構成する外部評価委員会を設置した。

Ⅲ. 平成 26 年度の事業評価・点検

本事業内容の質的向上を目的に、平成 26 年度の事業報告書に基づいて、内部評価委員会および福岡歯科大学自己点検・評価委員会で点検・評価を実施した。

Ⅳ. 在学生ならびに地域・企業へのアンケート結果の分析、公表

平成 27 年 3 月～4 月に実施した在学生ならびに地域・企業へのアンケート調査結果を分析し、調査・分析結果を事業報告書や日本歯科医学教育学会総会および学術大会や SPOD フォーラムなどでのポスター発表により公開した。

Ⅴ. FD ワークショップの開催、外部ワークショップ／講演会等への参加

新シラバス作成に関する FD ワークショップを 2 回、アウトカム基盤型教育の導入に関する FD 講演会を 1 回実施することにより、本事業に関する本学教職員の意識向上を図ることができた。また、教育支援・教学 IR 室所属の専任教員が、第 6 回歯科医学教育者のためのワークショップに参加したことで、アウトカム基盤型教育を推進していくための知見を得ることができた。

Ⅵ. コンピテンス・コンピテンシー（案）を加えた新シラバス（案）の作成

当初、新シラバスは行動目標ごとにディプロマポリシーを紐付けする前提であったが、学生に修得させる具体的な能力を重視する方針について、教育支援・教学 IR 室運営委員会において慎重に審議した結果、新シラバスで行動目標と紐付けするのは、アウトカム基盤型教育への転換を見据えて、ディプロマポリシーではなく、「コンピテンス・コンピテンシー」であるとの結論に達した。よって、福岡歯科大学におけるコンピテンス・コンピテンシーを定義するための協議を、教育支援・教学 IR 室運営委員会が中心となり進めた。

並行して、到達度を数値化するために必要となる e-シラバス機能を作成し、シラバス作成を Web 上で行えるようにした。また、本学 5 年生～6 年生の授業科目である「臨床実習」に関する詳細な評価結果を電子化するため、「臨床実習評価システム」の構築作業に着手した。

Ⅶ. 他大学の事例調査

他大学の訪問調査を実施し、「他大学が実施している様々な学修成果の可視化方法」および「アウトカム基盤型教育の導入方法とその内容」に関する情報を得ることができた。

Ⅷ. ディプロマポリシー達成に必要な総点算出方法の考案

教育支援・教学 IR 室が作成した算出方法の原案をもとに、教育支援・教学 IR 室運営委員会において審議のうえ、ディプロマポリシー達成に必要なコンピテンス・コンピテンシーの修得を数値化して算出する方法を決定した。